

「泥団子職人」

園長 鈴木 勝子

今年度初めの総会の折にもお話ししましたが、ここ数年、世界の幼児教育の中で『非認知的能力』という言葉が注目されています。例えば、最後まであきらめずにやりぬく力、人と関わる力、自分の感情をコントロールする力など目には見えないけれど、様々な人と一緒に、社会の中で生きていくためにとても大切な力、これが『非認知的能力』なのです。そしてそれは、乳幼児期に“夢中になって遊ぶ”ことによって育まれます。繰り返しになりますが、こども園時代の“遊び”の経験がとても重要だということです。今、改めて注目され、見直されている考え方ですが、聖隷こども園ひかりの子ではずっと大切にしてきた保育の考え方でもあります。とは言え、一番大事なのは何かの力を育てるために遊ぶのではなく、子どもが遊びそのものを心から楽しみ、安心感や喜びで心が満たされて初めて心の育ちにつながっていくのです。

さて、七月を迎え、園生活も整ってきて、子ども達は様々な事に「やってみよう！」と意欲満々です。でもいろいろと見えてきたからこそ不安になったり、梅雨のジメジメや夏の暑さに疲れやすくなる時でもあります。そんな時“気持ちよく遊ぶ！”ことが心の開放や安心感につながります。これからの季節、大好きな友達や大人と“砂”や“水”で遊ぶことで安心して心を開放していきます。

先日、「これ見て！できたよ！」と数人の子が得意げにピカピカの泥団子を見せて来てくれました。子ども達は園庭のどこの土が泥団子に適しているのか、土の湿り具合や握り具合、力の入れ具合もちゃんと心得ているようです。土を丸めて形を整え、バランスのよい球体に近づけます。そして、丸めながら乾いた砂を上からまぶす。さらに手のひらで転がして水分を飛ばし、ピカピカに磨き上げる。こうして出来上がった泥団子のまん丸さとピカピカの輝きには脱帽です。この職人並みの泥団子作りは、土の選定から始まり、試行錯誤を繰り返し、友達や職員に教えてもらったり真似をしたりしながら、コツを身につけ、やっと完成した自信作です。大人からするとただの砂遊びでも子どもは、沢山のことを学び、身につけています。神さまが創られた水・土・太陽の光に触れることで子どもの心と体は解放され、成長へと導かれるのだと思います。気持ちよく遊びこんでいる子ども達の表情は最高です。「あ〜楽しかった」「またやろうっと！」と心も満たされています。砂・泥んこ遊びが多い今の時期、毎度毎度のお洗濯、ただただ感謝の気持ちしかありません！ありがとうございます。また、水遊びが本格的に始まります。水着の用意や体調チェック等忙しい朝の時間帯にご面倒をおかけします。この夏もお家の方のご協力をいただきながら、自然の恵に感謝して夏ならではの経験をたくさんしたいと思います。

水遊びに関しましては、職員の体制を整えて事故の無いよう十分に配慮して行いたいと思います。職員の研修等、園側の都合でやむを得ずプール遊びは中止とし、シャワーで汗を流す程度の日もあるかもしれません。お子さんの安全確保のためご了承ください。ご理解の程よろしく願いいたします。